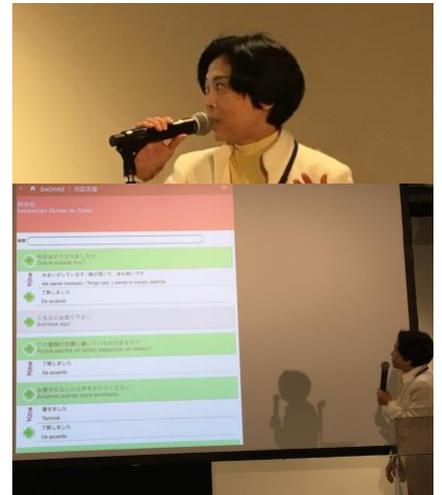


多言語対応・ICT化推進フォーラム 「医療用多言語対応情報提供システム（ソーカス）」

～医療に特化した、様々なポートフォリオの多言語に対応したシステム開発～

講師：上智大学理工学部教授博士（工学）、ソフィアメディカルインフォ株式会社 代表取締役 高岡 詠子氏

12月20日に「2020年オリンピック・パラリンピック大会に向けた多言語対応協議会」により、多言語対応の取組事例を広く共有・発信するための「多言語対応・ICT化推進フォーラム」が開催され、医療に特化した「医療用多言語対応システムSoCHAS（ソーカス）」についてのセミナーが行われました。「SoCHAS（ソーカス）」は上智大学による大学発のベンチャーによって開発された、医療・看護・福祉・介護分野に特化した情報システムです。「ソーカスは、医療機関での支払い方法、薬の飲み方などの情報を多言語で提供し、6,000を超える事前問診を用いながら、状況に応じて利用者が選択していくシステムであり、その翻訳精度はほぼ100%」と高岡氏は説明します。



ソーカスの開発は、教職・職員協働のイノベーション研究により2015年1月にスタートしました。留学生や外国語学部の学生を中心とした翻訳ボランティアなどによる翻訳チェック体制、保健センターでの実証実験を経て、学外への展開を目指して昨年開催の「多言語対応・ICT化推進フォーラム」に参加し、予想以上の手応えが得られたことをきっかけに、高岡氏を代表に「ソフィアメディカルインフォ株式会社」が設立されました。

ソーカスは現在、英語、中国語、インドネシア語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、フィリピン語、ロシア語、フランス語、ミャンマー語、タイ語、ネパール語と12カ国語の多言語に対応しています。ソーカスの活用例は大きく分けて4つあり、「病院・クリニック対応」「院内フロアマップナビ」「プレスタディ」「セルフチェック」です。「いずれも病院側と外国人の双方にニーズがあり、病院以外にも看護師や薬局、歯医者などへも広がっています」と高岡氏はソーカスの活躍シーンの広さを説明しました。翻訳精度を上げるために、極力選択（問診）形式と対話モードを用意しています。また現場に合わせたカスタマイズも可能なので、個々の医療機関ニーズにも対応が可能になります。

また、聖マリアンヌ医科大学等と行った共同研究が披露され、スマホやタブレットにおいて、多言語に合わせた視覚的にもわかりやすい操作画面が紹介されました。また活用例の紹介では、「セルフチェック」機能を例に、「訪日外国人を対象に症状にあわせて近くの受診医療機関の紹介を行うこともできます。また外国では、自分で診療する科を選ぶ習慣がない国もあり、自分で受診する科を選ぶ手助けができます」と高岡氏は話し、「利用シーンはホテル、空港、駅、タクシー、観光バス、飲食店などを想定していますが、患者の問診票を事前に日本語のメールで受け取り、受診前に患者の状態が把握できるため、病院・クリニックのメリットも大きい」と話します。



高岡氏は「12カ国に対応し医療分野に特化したソーカスは、病院・クリニック・調剤薬局や保健センターとあらゆるニーズに対応した多言語システムであり、現場で迅速にカスタマイズできるので、利用場面はさらに広がっていくはず」とソーカスの可能性を話されました。

(平成30年作成)